【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：湯来町地域課題の解決を目指す「清流セラピー」の研究	
研究代表者：保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース 教授 金井秀作	連絡先：kanai@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース 教授 田中聡 助教 髙宮尚美 助教 岡村和典	

【研究概要】

広島県湯来町における現状“清流セラピー”が企業・観光客向けのサービス事業として実施するための現状調査とその効果検証を実施した。その結果，アクティビティとしての「動的」清流セラピーのリフレッシュ効果は期待でき，対象者に合わせた動線が必要であるが完成形であると判断できたが，心理評価では明確なリラックス効果は示さなかった。そこで「静的」清流セラピーは，現状の「動的」＝シャワークライミングとは別ものとし，積極的運動等は非介入とする「リラックス」要素を意識した自然体験が必要と判断された。

【研究内容・成果】

１．研究内容

昨年度（2020 年度）においても同様の研究を行ったが，コロナ禍のため現地検証はすべてかなわなかったため，今年度においては現地検証を実施する予定であった。しかしながら今年度においてもコロナ禍の影響は大きく，現地検証はかなり限られた状況で行うこととなったが一定の成果を得ることができたため，以下に要約して報告する。

昨年度の成果と課題におけるポイントは次の４点である。

(1)湯来観光地域づくり公社による清流体験と湯来町の環境・人材の視察。
(2)コロナ禍により海浜セラピー体験者である大学生の現地参画見合わせ。
(3)現“シャワークライミング”体験オンライン・プレゼンに基づく教員・大学生による評価を実施。
(4)主効果を期待する項目と体験内容に乖離がある等いくつか課題を発見。

そこで今年度研究では現地での実体験評価を行うとともに安全性を配慮した清流セラピーのコース選定・開発が必要と考えられ，下記の３点をテーマとして研究を試みた。

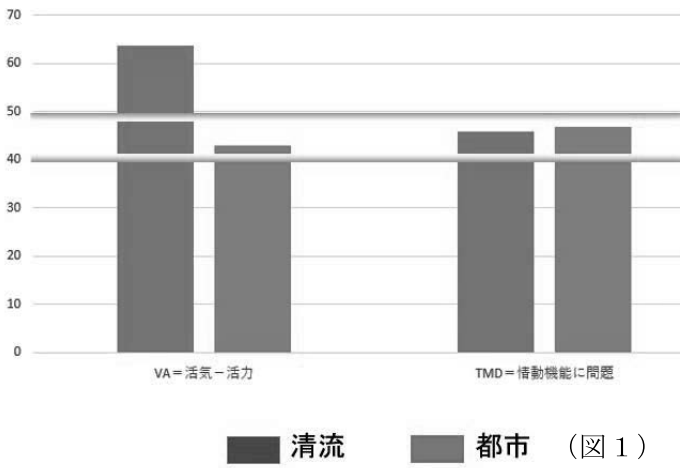
①“清流（シャワークライミング)”体験評価----○人数制限にて実施
②「非清流環境（都市）比較」体験評価----------△環境制限および時期変更ながら実施
③「清流セラピー」コース選定・開発----------▲コロナ禍により実施できなかったが①②の成果を参考に有識者を交えて机上検討のみ実施

２．研究成果

得られた結果を総括するとアクティビティとしての「動的」清流セラピーのリフレッシュ効果は期待でき，対象者に合わせた動線が必要であるが完成形であると言えることが判明した。心理評価としてのアミラーゼ・POMS（次頁図１）では明確なリラックス効果は示さなかった。これは現状の「動的」清流セラピーにおいて活性化因子が強すぎることの表れであると考えられる。一方，活動量は想定および体験よりも低い結果となったが身体負荷につい

ては加速度計による計測であったため水抵抗がデータに反映されていないことが原因と思われた。

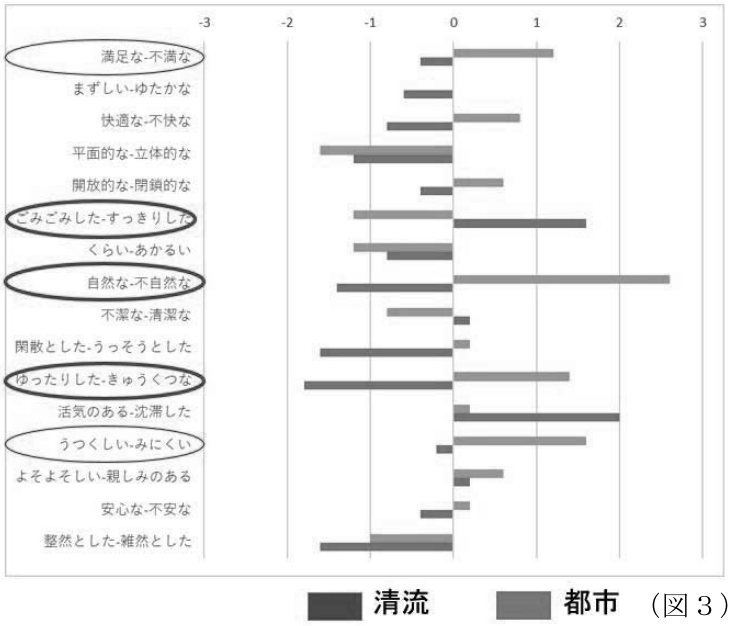
「静的」清流セラピーは，現状の「動的」＝シャワークライミングとは別ものとし，積極的運動等は非介入とする「リラックス」要素を意識した自然体験と対象者の細分化（小児，成人，老人，障害者など）が必要と判断される（図２）。



（図１）

（図２）

なお，Semantic differential 法による評価では自然環境としての優位性は想定通りとなり，観光資源として有望であることは再確認できた（図３）。



（図３）